

くらしに生かされる汚泥や処理水

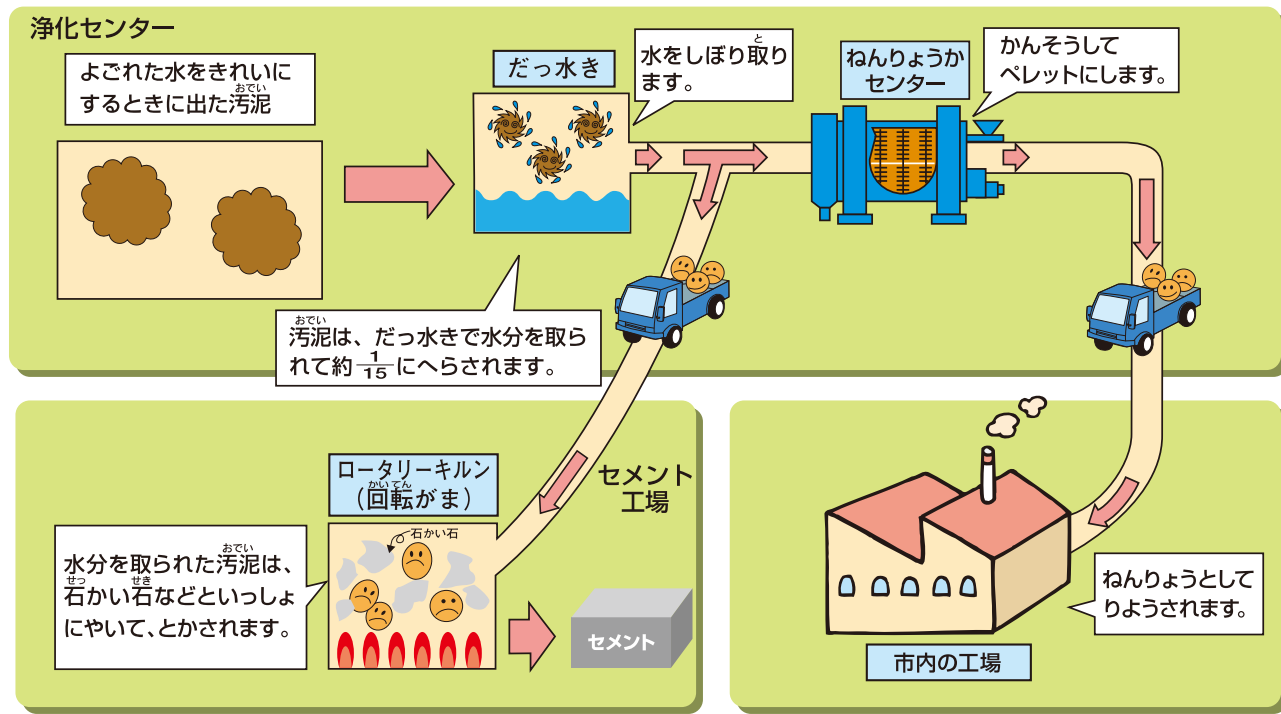
汚泥や処理水は、どのように再利用されているのでしょうか。

○汚泥は、どのように再利用されているのでしょうか。

水をしぼり取られ、小さくなった汚泥は、浄化センターからトラックで工場に運ばれ、ねん土のかわりとして石かい石などといっしょに高い温度でとかされて、セメントの原料として使われています。

また、残りの汚泥も、ねんりょうかぶつに生まれかわり、市内の工場でエネルギーとして利用されています。

使える汚泥に



○処理水は、どのように再利用されているのでしょうか。

わたしたちの住む地球は総面積の7割を水で覆われていますが、その大半は海水や氷河などで、わたしたちが利用できる水の量は全体の0.8%しかないとわれています。この限られた大切な水資源を将来にわたって利用していくために、北九州市では、浄化センターで処理された水を海に流すだけでなく、一部を「洞海バイオパーク」や工場の用水(機械をひやしたりするのに使われる。)として再利用しています。



日明浄化センターのせせらぎ

★指導上の留意点★

浄化センターでは、汚泥や処理水の再利用のほか、消化ガス発電、太陽光発電、風力発電や水力発電といった資源の有効活用や自然エネルギーの活用に取り組んでいます。

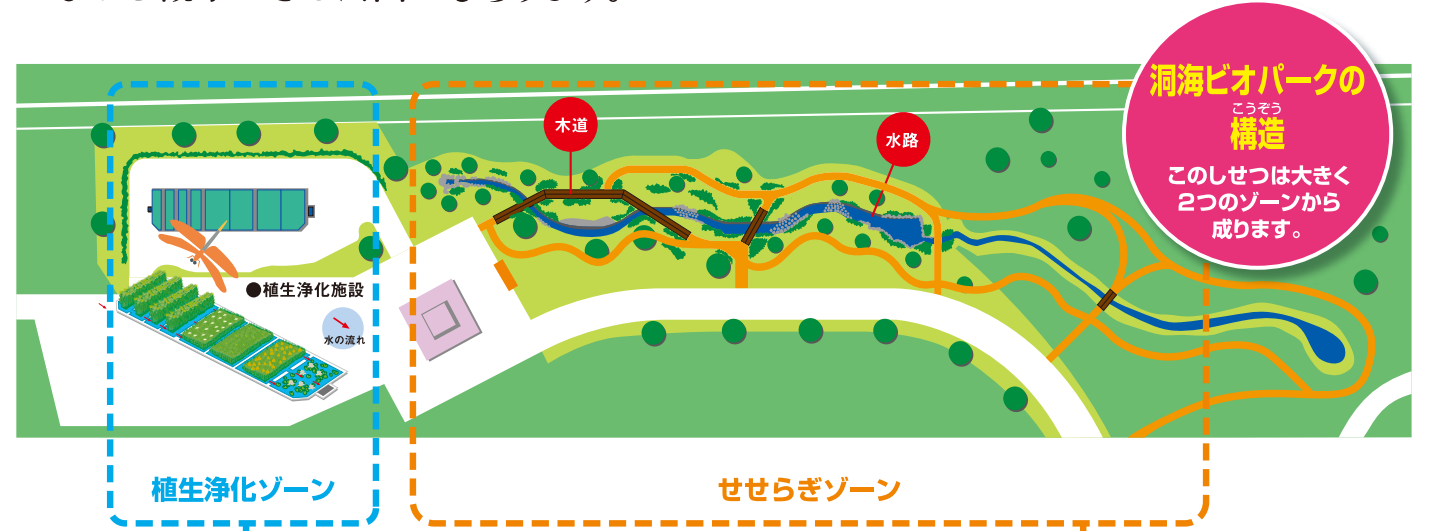
「ペレット」とは、直径1～5mm程度の球形のものです。

洞海バイオパーク (植物浄化しせつ)

～植物を使って水をさらにきれいに～

平成10年10月に完成した『洞海バイオパーク』では、皇后崎浄化センターの処理水を植物を利用してさらに浄化し、その水によって水辺の生き物たちのすみか(ビオトープ)をつくる取り組みをしています。

『洞海バイオパーク』は、植物を使って処理水をさらにきれいにするしくみを、楽しみながら観察できる公園でもあります。



植生浄化ゾーン

マコモやヒメガマ、セキショウ、カキツバタ、ミンハギなどの植物をうえて、処理水の中のリンやちっ素を取りのぞきます。(長さ30m、はば8m)



● 洞海バイオパーク…八幡西区本城五丁目(洞北緑地公園内)

★指導上の留意点★

海などで、リンやちっ素が多くなると(富栄養化といいます)、それを栄養にして植物プランクトンが大量に増え、赤潮が発生することがあります。

せせらぎゾーン

植生浄化ゾーンできれいにした水を、水草でさらに浄化します。また、ホタルやメダカなどの生きもののすみせせらぎをめざします。水は、池にそそいだ後、洞海湾へ流れ込みます。(およそ125mの水辺)

